

平成18年度

事業計画書



平成18年4月

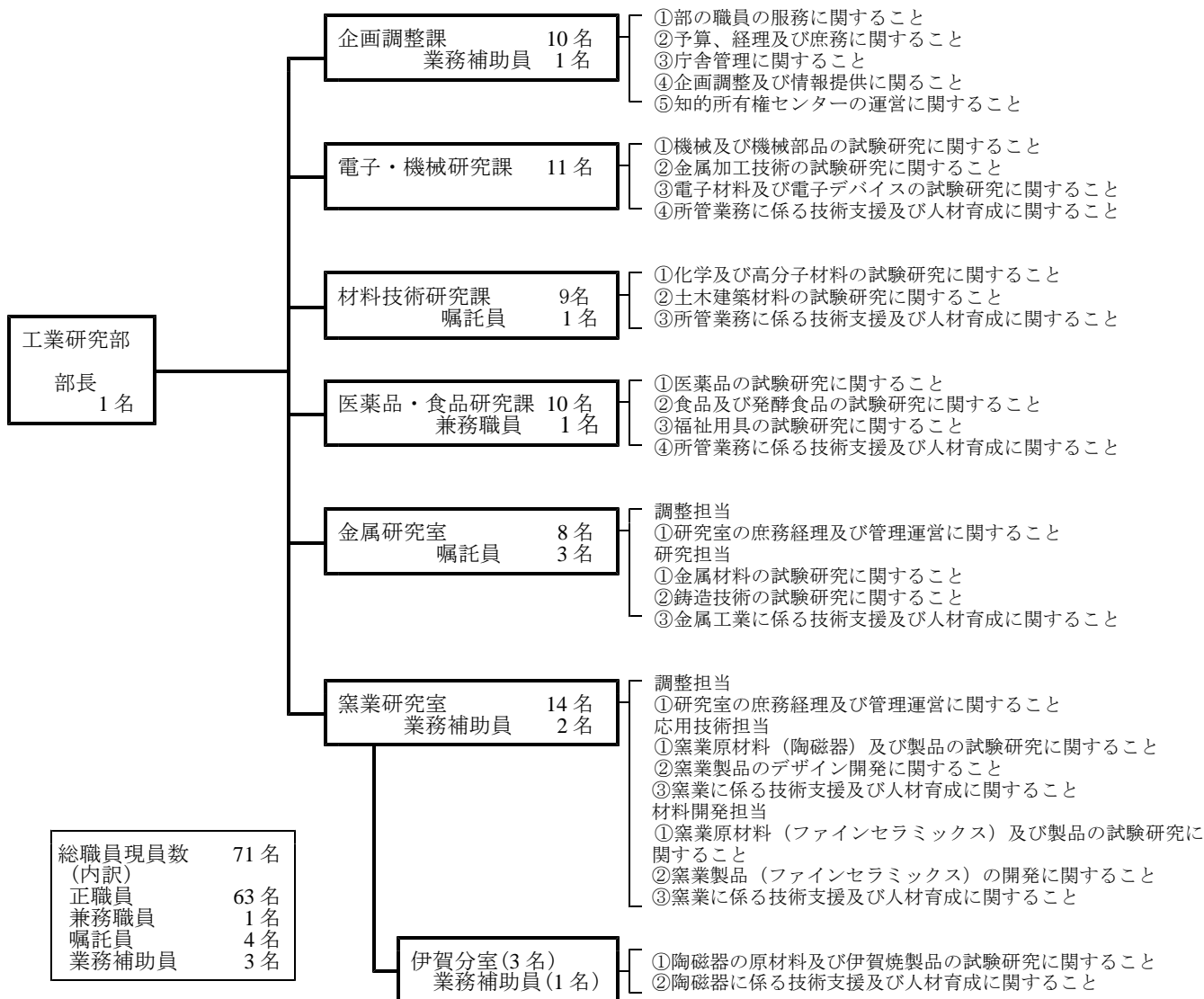
三重県科学技術振興センター
工業研究部

目 次

1. 組織と施設	1
1.1 組織と業務	1
1.2 事業予算	2
2. 研究業務	3
2.1 新分野への展開を図る研究開発の推進	3
2.1.1 先端的な新産業分野を推進する研究開発	
2.1.2 市場ニーズの拡がりに対応する新産業分野の研究開発	
2.2 地域産業の高度化のための技術開発の推進	5
2.2.1 高付加価値化を推進する技術開発	
2.2.2 資源有効活用を推進するための技術開発	
2.3 研究交流の推進	6
2.3.1 産学官の研究者の交流の推進	
2.4 その他の施策、基本事業への貢献	7
2.4.1 農業を支える技術開発の推進	
2.4.2 経営改革の支援	
2.4.3 資源循環技術の研究の推進	
3. 技術支援業務	8
3.1 新分野への展開を図る研究開発の推進	8
3.1.1 薬事関係技術支援強化事業	
3.2 地域産業の高度化のための技術開発の推進	8
3.2.1 工業等依頼試験事業	
3.2.2 産業ニーズ・技術シーズ活用化促進事業	
3.3 技術人材の育成・確保	8
3.3.1 知的財産権活用支援事業	
3.3.2 ものづくり技術者育成事業	
3.3.3 インターンシップ研修生の受け入れ	
3.4 研究交流の推進	9
3.4.1 電子材料研究センター事業	
3.5 交流による科学技術の振興	9
3.5.1 なるほどコミュニケーション推進事業	
3.6 開かれた公設試験研究機関の推進	9
3.6.1 機器開放推進事業	
4. 講演会、研究会の開催	10
4.1 交流による科学技術の振興	10
4.2 地域産業の高度化のための技術開発の推進	10
4.3 技術人材の育成・確保	11
5. 展示会等への出展	12

1.組織と施設

1.1 組織と業務



1.2 事業予算

歳入

科目	予算額 (千円)
県費	19,116
国庫補助金	0
使用料及び手数料	20,602
財産収入	220
諸収入	34,056
繰入金	32,751
計	106,745

歳出

科目	予算額 (千円)
事業費	106,745
計	106,745

2. 研究業務

県民しあわせプラン（三重県の政策・事業体系）の政策－施策－基本事業－事務事業体系に位置付けられた「施策：技術の高度化の促進」を主体とし取組むとともに、他の施策やそこに位置付けられた基本事業の推進に対し研究開発で貢献するため、以下の研究を実施します。

政策：地域経済を支える戦略的な産業振興

施策：技術の高度化の促進（234）

2.1 基本事業 I：新分野への展開を図る研究開発の推進（23401）

2.1.1 先端的な新産業分野を推進する研究開発

三重県では、21世紀の成長産業である液晶、FPD産業の集積、また次世代エネルギーの主演として期待されている燃料電池関連産業の集積を目指している。これに対応するために、燃料電池分野における素材開発や、情報家電分野における多様なディスプレイ技術の研究開発を推進する。

(1) 燃料電池技術の普及を促進する要素開発事業費（新） 平成18～20年度

電子・機械研究課、窯業研究室

燃料電池の実用化をめざした実証試験等が国内で活発に進められ、三重県においても燃料電池技術等を活用したモデル地域づくりに取り組んでいる。しかし、依然として低コスト化と耐久性の向上等の技術課題が残っている。そこで、性能向上とコスト削減を目指して、固体高分子形燃料電池の主要部材であるセパレータの軽量化・薄肉化（2mm以下）を検討する。

また、次世代の燃料電池として注目されている固体酸化物形燃料電池について、従来の窯業技術を用いた製造方法により、低コストな製造方法を研究する。

(2) 燃料電池実用化戦略的技術開発事業費（継） 平成17～19年度

電子・機械研究課

固体高分子形燃料電池の実用化を目指して、燃料電池実用化戦略的技術開発事業を独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（略称：NEDO）から研究業務委託を受け、平成17～21年度の5ヵ年の計画で実施する。この事業は、大同工業大学堀教授をリーダーとして、大学、民間企業との共同プロジェクトとして進められ、自動車用燃料電池の耐久性を高めるための劣化対策の研究に取り組む。

工業研究部では、燃料電池を構成する樹脂セパレータからの溶出物に対する劣化対策について研究する計画になっている。

(3) ディスプレイ用発光体と透明電極開発費（新） 平成18～20年度

電子・機械研究課

県内へのディスプレイ関連産業の集積や情報家電等の新分野への展開を促進するため、これまでの県内の研究の蓄積から、有機無機ハイブリッド白色発光材料と透明導電薄膜の開発めざし、材料の合成技術や評価技術、低コスト化技術を研究し、液晶パネルのバックライトや照明器具、携帯電話や光透過型電子デバイスなどの次世代ディスプレイ関連製品への展開を図る。

(4) 酸化物系青色発光蛍光体開発研究費（継） 平成17～19年度

電子・機械研究課

低速電子線励起で青色発光を示し、非硫化物で環境に優しく、安価な酸化物蛍光体を開発し、真空蛍光表示管や次世代ディスプレイ関連製品への展開を図る。

(5) 新分野展開経常試験研究費

① 電子機器関連産業における技術課題調査（新） 平成18年度

電子・機械研究課

第三世代携帯電話等の電波利用機器の増加により、電子機器の高周波数化、高速化が進展している。電子機器の製品開発では、電磁波に対する特性を評価するため、電波暗室での測定が行われている。これらのノイズ対策における県内電子機器関連産業の抱える技術課題を明らかにし、今後の研究開発への取組を検討する。

② 色素増感太陽電池の研究（新） 平成18年度

電子・機械研究課

低コストの原料と簡易な製造プロセスで作製できる色素増感太陽電池の製作技術を開発した。この技術の実用化を目指して、太陽電池セルの耐久性向上の技術の課題を検討し、新規高機能太陽電池の可能性を明らかにする。

③ 高分解マニピュレータ設計技術の開発（新） 平成18年度

金属研究室

電子部品や製品の製造には、サブミクロンでの位置決め精度が必要になってきており、簡易な精密位置姿勢制御装置が望まれている。パラレルメカニズムは、この原理で、アクチュエータの分解能より精細な手先分解能が得られることを明らかにしてきた。これを活用した電子機器の生産装置開発を対象とした6自由度精密位置姿勢制御装置の設計手法の開発を目的とする。

2.1.2 市場ニーズの拡がりに対応する新産業分野の研究開発

県民の健康で安全・安心な生活の確保、高齢化社会への対応や環境先進県としての環境への取り組みが市場ニーズの拡がりを見せている。これに対応するために、医療・健康・福祉分野の連携を目指す研究開発、セメント・土壌製品分野における環境負荷を低減する研究開発を推進する。

(1) 地域天然資源の有効成分活用研究事業費（新） 平成18～20年度

医薬品・食品研究課

三重県は南北に長く、内湾から外洋、平地から山地と、地形や気候に恵まれており、地域特有の天然資源が豊富である。これらには健康により有効成分があることが知られているが、医薬品や食品素材としては活用されていない。そこで、地域天然資源の有効成分を分析して、素材として活用できる有効成分のデータベースを構築し、分離・抽出技術を開発して、企業と産学官の共同研究に結びつけ、食品・医薬品等のバイオ関連分野の新商品が次々と創出される仕組みを構築する。

(2) 新規増粘剤の開発とその食品・医薬品等への応用研究費（新） 平成18～20年度

医薬品・食品研究課

増粘剤は、物性付与・乳化安定・分散安定・保水等の目的で、加工食品や医薬品等に使用される極めて重要な素材である。これまで、モロヘイヤやツルムラサキ等から抽出した未利用の増粘多糖類から新規な増粘素材を開発してきた。これらの増粘剤の用途の一つとして、高齢者の飲み易さに考慮した嚥下補助食品を開発し、高齢化社会に対応した食品および医薬品等の新しい分野の展開を図る。

(3) 服用しやすい製剤に関する研究事業費（新） 平成18～20年度

医薬品・食品研究課

高齢化社会を迎え、高齢者の加齢による機能低下を補う服用しやすい（扱いやすい）製剤の開発が求められている。しかし、県内の製薬企業の殆どは医薬品素材段階の製品を製造するメーカーがほとんどで、医薬品の製剤に関し、差別化技術を有していない。そこで、微細顆粒コーティング技術、錠剤コーティング技術の開発により、苦みをマスクした飲みやすさと、服用時の筋活動や身体的変化を測定する。生体工学的アプローチから物理的な飲みやすさを評価して、高齢者が服用しやすい製剤を開発する。

(4) ダニアルergen低減化物質の開発及びその実用化研究（継） 平成17～19年度

材料技術研究課

喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患が大きな問題となっており、その発症を減らす物質を開発し、種々の製品群への展開を目指す。

(5) 植物由来機能材料の実用化研究（継） 平成16～18年度

材料技術研究課

（三重大学）

リグニン誘導体を活用して重金属吸着材、循環型壁板、分解性フィルムについて研究を行ったきたが、実用化を高める技術開発を実施する。

(6) 新分野展開経常試験研究費

① 3次元人体計測と人体モデルの構築（新） 平成18年度

医薬品・食品研究課

高齢者や障害者を含め、個人に最適な日常生活用品が望まれている。しかし、身体寸法は1次元、2次元の情報に限られており、これらのニーズに対応した製品開発が困難である。そこで、個人の人体形状を3次元で計測し、3次元人体モデルを構築する。

② 高性能空気浄化モジュール開発に関する研究（新） 平成18年度

材料技術研究課

シックハウス症候群原因物質等の有害空気汚染物質の除去対策が求められている。そこで、アコヤ貝の貝殻を出発原料とする多孔質体と光触媒との複合化により空気中の有害物質を除去する方法を開発する。

③ 未利用資源を利用した重金属固定材料の開発（新） 平成18年度

材料技術研究課

土壌汚染対策法により、土壌の汚染の調査が必要になり、汚染状況が明らかになるとともに社会問題化している。このため、土壌浄化および拡散防止の技術開発が進められている。本研究では、県内で廃棄されている無機系の未利用資源（廃ガラス、砕石粉、汚泥等）を対象とし、重金属汚染土壌の拡散防止技術としての固型化、不溶化の可能性を明らかにすることを目的とする。

2.2 基本事業Ⅱ：地域産業の高度化のための技術開発の推進（23402）

2.2.1 高付加価値化を推進する技術開発

県内外の産地間競争に勝つためには、独自の魅力を持った高品質・低コスト製品開発や、地域の産業構造や伝統・文化・地域資源に立脚した地域ブランドを創出する技術が必要である。これに対応するために、安全・安心な陶磁器・同関連製品開発、鉄素形材の高品質化、一般機械器具の高精度化、食料品のブランド化について技術開発を推進する。また同時に、企業のニーズを的確に把握した技術支援や技術相談に対応した技術開発を行う。

(1) 鋳物産業等の新製品開発事業費（新） 平成18～20年度

金属研究室

北勢地域を中心に立地する鋳物産業、建築金物製造業ではマンホール蓋、グレーチング（溝蓋）等が主要製品として製造されている。

近年高齢化社会を迎えて、これら路上に設置される製品が原因で高齢者が転倒する事故が増加し、社会問題になっている。そこで、転倒事故が起りにくい製品を開発するため、すべりの評価技術を確立し、この技術を活用して表面形状や耐久性等の面から検討した転倒防止製品を開発する。さらに、デザインに優れた鋳物製品を開発し、これにより、県内の建築金物製造業の活性化を図る。

(2) 機械金属部品の破損予防技術開発事業費（新） 平成18～20年度

電子・機械研究課

最近の機械製品は高性能・軽量化が進み、構成する部品の高機能化が求められているが、破断や歪み等の不具合が少なからず発生している。そこで、これら金属部品の切削・熱処理等の加工による残留応力の分布を測定し、破損事故を事前に抑制する製造技術や材料を提示する。これによって機械金属製造業における不良品の発生を減少し、効率的な生産技術を確立する。

(3) 2次元振動型マイクロジャイロの実用化研究（継） 平成17～19年度

電子・機械研究課

機械装置の姿勢制御等に応用が可能なマイクロジャイロについて、複数のIC（集積回路）を1つのPLD（プログラム可能な素子）に機能を書込み、全体のICの数を減らして小型、省エネ化したシステムを構築する。

(4) 県内農林水産物からの新規発酵食品の開発研究（継） 平成17～19年度

医薬品・食品研究課

食品微生物の管理技術を応用して県内産農林水産物の機能性の改善と発酵による香味賦与と栄養強化を図り、県オリジナルブランドの発酵食品を開発する。

(5) 安全・安心な陶磁器製品開発事業（継） 平成16～18年度

窯業研究室

窯業研究室伊賀分室

食器の安全性を確保するため、有害な物質の使用を抑制した低環境負荷型の陶磁器釉薬の開発や、IH（誘導加熱）用調理器具の安全性評価法の確立を行う。また、陶磁器の低温焼成技術の開発を行う。

(6) 地域産業高度化経常試験研究費

県内産業界が当面する地域産業の高度化に係る技術上の問題を解決するため、他県の公設試との連携を図るとともに、以下に示す経常研究を行う。

①三重県オリジナル「日本まんなか共和国」統一ブランド清酒の開発（継） 平成16～18年度

医薬品・食品研究課

（福井県、滋賀県、岐阜県、酒造組合）

地域連携事業の「日本まんなか共和国技術交流推進協議会」で地域産業の活性化を目的とし、共和国統一ブランド清酒の製品化を行う。

②萬古急須の特性解明の研究（新） 平成18年度

窯業研究室

窯業研究室伊賀分室

伝統的な製品である四日市萬古焼急須でお茶を入れるとおいしいと言われるが、科学的には何も解明されていない。そこで、萬古焼急須の熱伝導性、気孔率、鉄の含有形態と、お茶の温度や成分との関連を調査し、お茶をおいしく入れる急須の特性を明らかにする。

2.2.2 資源有効活用を推進するための技術開発

資源大量消費型社会が資源・環境に影響を与えていることから、県内の限られた資源を有効的に活用した技術開発が必要である。これに対応するために、資源を多面的に活用した工業用プラスチック製品開発、資源の無害化により有効活用を図る製材業・木製品開発、食料品のブランド化について技術開発を推進す

る。

(1) 持続循環型グリーンコンポジットの開発研究費（継） 平成17～19年度

材料技術研究課

穀炭化物と食物由来の生分解性プラスチックとの複合化により、再生可能資源による生分解性促進と制電性を有する持続循環型グリーンコンポジットを開発し、生分解性プラスチックの用途拡大を図る。

(2) 有害化学物質の放散を抑制した住環境形成木質材料の開発（継） 平成16～18年度

材料技術研究課、医薬品・食品研究課

（林業研究部、保健環境研究部）

（三重大学、三重県立看護大学）

シックハウス関連規制に対応し、木の持つやすらぎ等の特性に着目した天然木材の良質性能を活用した住宅関連木質材料を開発する。

施策：科学技術交流の推進（5 1 3）

2.3 基本事業：研究交流の推進（5 1 3 0 1）

2.3.1 産学官の研究者の交流の推進

環境・福祉・健康などを取り巻く諸課題の改善、地域産業の活性化、新産業の創出などに対応した研究開発を行うため、産学官の研究者の交流や産学官共同研究などを推進する。

(1) 熊野古道特産品共同研究開発事業（継） 平成17～19年度

医薬品・食品研究課

窯業研究室

窯業研究室伊賀分室

（農業研究部、畜産研究部）

（三重大学）

世界遺産の地域指定を受けた熊野古道地域を対象に、既存の第一次産品を生かした、観光産業と結びついた新たな産品を開発して、地域ニーズに基づいた新産業の創出を図る。

(2) 未利用海藻活用共同研究事業費（継） 平成17～19年度

医薬品・食品研究課

材料技術研究課

（保健環境研究部、水産研究部、畜産研究部）

（三重大学）

県内沿岸に生息するアナアオサやアマモ等は、夏期に枯死・腐敗することから漁場環境を悪化させることがある。このため、これら未利用の海藻を枯死するまでに収穫し、前処理、加工することで、飼料化や機能成分の利用を図る研究に取り組む。工業研究部では、加工技術の開発と機能性成分を活用した製品開発を分担する。

2.4 その他の施策、基本事業への貢献

2.4.1 基本事業：農業を支える技術開発の推進（22401）

テーマ：多様で安全・安心な食糧供給のための生産技術

農業と食品産業との健全な発展を総合的に図ることを通じ、多様な消費者ニーズに応じた食料供給のための生産技術開発に取り組む。

(1) アグリビジネス化支援研究開発事業（継） 平成16～18年度

医薬品・食品研究課

（農業研究部）

（独立行政法人野菜茶業研究所、三重大学、松阪大学）

紅茶系系統による緑茶、カキ、ブドウ、カンキツ幼果を利用し、抗酸化作用や抗ガン作用のある有効成分を活用した加工食品を開発する。

(2) 新しい三重の酒造好適米品種の育成と地域特産化事業（継） 平成17～19年度

医薬品・食品研究課

（農業研究部、伊賀県民局）

（酒造組合、山田錦生産振興協議会）

農業研究部育成の酒米系統について、有望系統を選定し、開発された酒米の小仕込み試験、実用規模での酒造試験を行い、酒造好適米の開発を目指す。

2.4.2 基本事業：経営改革の支援（23201）

テーマ：新商品・新技術開発等支援

中小企業の経営改革を促進するため、自ら経営改革にチャレンジする意欲のある中小企業に対し、（財）三重県産業支援センターと連携して、企業のニーズに応じた機動的な研究支援を行う。

(1) 中小企業経営改革チャレンジ支援事業－新商品・新技術開発支援

経営改革に取り組む中小企業等の新商品・新技術開発や技術の高度化を支援するために、科学技術振興センターが中小企業者との共同研究や技術開発・技術支援を行う。

2.4.3 基本事業：資源循環技術の研究の推進（41104）

テーマ：資源循環技術の研究の推進

社会経済活動が深刻な環境問題を引き起こしており、産業界では産業廃棄物の削減・リサイクルの推進を図る取り組みが活発に行われている。これらの取り組みを支援するため、企業と共同してリサイクル技術の開発等に取り組む。

(1) 木材加工所から副生される樹皮の高度利用技術開発費（新） 平成18～20年度

材料技術研究課

樹皮は、材部に比べ組織や化学成分が複雑であることからその利用が遅れており、県内の木材加工所等では製材時に大量に副生する樹皮の処分に苦慮している。そこで、樹皮のオゾン処理等の前処理技術や樹皮抽出物、液化技術による不溶物の利用技術を開発し、抗菌剤、防虫剤、園芸資材、生分解性成型体等を開発し、総合的な利用技術の開発をめざす。

(2) 廃FRPのリサイクル技術の開発事業費（新） 平成18～20年度

材料技術研究課

県内においてほぼ全量が焼却や埋立処分されている廃FRP（ガラス繊維強化プラスチック）の資源循環を図るため、廃FRPの再樹脂化技術と、粉碎品を副資材としてコンクリート製品へ活用する技術を開発し、廃FRPの発生抑制やコンクリート2次製品の開発を図る。

(3) 産業廃棄物抑制産官共同研究事業（継） 平成14年度～

産業廃棄物の抑制・リサイクルを推進する企業と共同研究を行い、県内企業における産業廃棄物の削減を図る。

3. 技術支援業務

施策：技術の高度化の促進（234）

3.1 基本事業Ⅰ：新分野への展開を図る研究開発の推進（23401）

3.1.1 薬事関係技術支援強化事業

薬事関係企業の研究開発や技術開発を支援するため、技術相談、技術支援、機器開放等を行い、技術の高度化を図る。具体的にはニーズを把握するための薬事キャラバンは関係企業30社を訪問する予定であり、ワンストップ相談窓口件数は150件を目標としている。

3.2 基本事業Ⅱ：地域産業の高度化のための技術開発の推進（23402）

3.2.1 工業等依頼試験事業

県内の産業界が当面する技術上の問題を解決するために、依頼試験、技術相談等の技術支援を実施し、技術課題の解決や企業での技術開発を支援する。また、事業計画書、業務報告書、研究報告書を発行し、業務の広報を行う。

3.2.2 産業ニーズ・技術シーズ活用化促進事業

県内中小企業へ出向き、企業とフリートークの中でニーズを発掘し、共同して技術開発に取り組む。

3.3 基本事業Ⅲ：技術人材の育成・確保（23403）

3.3.1 知的財産権活用支援事業（元気5 重点プログラム「中小企業支援プログラム」）

県内の中小企業、ベンチャー企業等を対象に、知的財産権等の閲覧支援、検索支援、発明相談、特許技術移転相談等により、知的財産権サポート体制を強化し、知的財産権の活用を支援する。

①弁理士による無料相談会の開催

②特許流通アドバイザー、特許情報活用支援アドバイザーらによる特許巡回相談（出前特許相談）の実施

③特許の有効活用を促進するため、特許有効活用講演会の開催

④インターネットで特許情報を取得できる特許電子図書館情報検索講習会の開催

3.3.2 ものづくり技術者育成事業

鑄造業界、陶磁器業界における製品や技術の高度化、デザイン開発を進めるための技術人材を育成するための座学や実習等の講座を実施する。

3.3.3 インターンシップ研修生の受け入れ

県下あるいは本県出身者の在学する高等教育機関からインターンシップ研修生を受け入れる。

受け入れ時期：平成18年7～8月頃

3.4 基本事業：研究交流の推進（5 1 3 0 1）

3.4.1 電子材料研究センター事業

ディスプレイ等の電子デバイス用電子材料技術に関する産学官研究ネットワークを充実し、県内企業のイノベーションの創出支援、電子材料研究会の開催等の事業を行う。

3.5 基本事業：交流による科学技術の振興（5 1 3 0 2）

3.5.1 なるほどコミュニケーション推進事業

科学技術・工業技術の普及を図るため、県民や子ども等を対象とする以下の行事を実施する。

① 科学技術週間施設公開

科学技術週間に合わせ、工業研究部、金属研究室、窯業研究室を県民に開放し、工業研究部では科学技術体験型のイベントを併催する。また窯業研究室では「萬古まつり」に合わせて施設を公開し、ミニ講座、体験教室のイベントを行う。

科学技術週間開催時期：平成 18 年 4 月 17 日（月）～ 23 日（日）

窯業研究室施設公開開催時期：平成 18 年 5 月 14 日（日）

② 子ども科学体験教室

夏休みに、科学技術振興センター各部と協働し、子ども向け体験イベントを実施する。

開催時期：平成 18 年 7 月 29 日～ 30 日

③ 出前科学体験教室

県内の小学校に出向き、工業研究部の特色を活かした科学技術普及教育を実施する。

開催時期：随時

3.6 基本事業：開かれた公設試験研究機関の推進（5 1 3 0 3）

3.6.1 機器開放推進事業

創造的技術開発を支援するため、当研究部の試験研究機器を開放して、企業の研究開発に供する。

4. 講演会、研究会の開催

関連団体が主催する研究会、審査会、研修会等へ研究員を派遣したり、技術的な企画に参画し、各業界の技術の高度化や人材育成を支援する。

4.1 交流による科学技術の振興（51302）

会名	開催回数 又は時期	内容	主催団体等	担当
三重県発明くふう展	11月	次代を担う青少年に発明くふうの楽しさを体得させ、優れた作品を顕彰して創造性豊かな人間形成をめざす。	(社)発明協会三重県支部 三重県、津市	企画調整課
創意くふう展審査会	9月	次代を担う青少年に発明くふうの楽しさを体得させ、優れた作品を顕彰して創造性豊かな人間形成をめざす。	桑名発明会	金属研究室
子ども陶芸コンクール	10月	地域産業の体験を通じて科学技術を普及する。	四日市市	窯業研究室
四日市地区（海蔵）小学校教職員研修会	7～8月	小学校教員に陶芸指導の実践を教授することにより小学生の科学への理解度を向上する。	各小学校	窯業研究室
伊賀焼作陶・穴窯焼成体験	4～5月	伊賀焼の振興と啓蒙を目的として、伊賀の陶土を使った作陶と穴窯焼成体験を行う。	伊賀焼振興協同組合	窯業研究室 窯業研究室伊賀分室

4.2 地域産業の高度化のための技術開発の推進（23402）

会名	開催回数 又は時期	内容	主催団体等	担当
鈴鹿市ものづくり研究開発事業審査会	1回	市内の中小企業の技術力・競争力を産学官連携により強化し、優れた産業集積を形成する。	鈴鹿市	企画調整課
三重県中小企業創造的事業活動計画認定委員会	2回	中小企業が研究開発により新製品を生み出す取り組みを支援する。	農水商工部	医薬品・食品研究課
地域特産めん研究会	2回	食品業界の麺製品の品質向上と新商品開発を推進する。	三重県製麺協同組合	医薬品・食品研究課
県内麦の適正評価会	1回	県内産小麦の消費拡大を促進する。	三重県製粉工業協同組合	医薬品・食品研究課
製麺技術研究会	1回	企業の製麺技術の向上を推進する。	三重県製麺協同組合	医薬品・食品研究課
初呑切研究会	3回	県内清酒の品質管理技術と官能評価技術の向上を図る。	三重県酒造組合	医薬品・食品研究課
三重県新酒品評会	3月	県内清酒の品質向上を図る。	三重県酒販組合	医薬品・食品研究課
酒造講話会	12月	企業の酒造技術の向上を図る。	三重県酒造組合	医薬品・食品研究課
全国市販酒類調査官能評価	1回	東海地方の酒類の品質向上	名古屋国税局	医薬品・食品研究課
酒類鑑評会	3日	東海地方の酒類の品質向上	名古屋国税局	医薬品・食品研究課

期限付き免許者製造酒類の品質審査会	1回	東海地方の酒類製造業が製造する酒類の品質を審査し、免許の期限延長の適性を審査し、品質向上を図る。	名古屋国税局	医薬品・食品研究課
コンクリート技術講演会	11月	土木関連業界の技術力向上	三重県生セメント製品工業技術振興会	材料技術研究課
三重県生コンクリート工業組合共同試験場立入検査	6回	生コンクリート製造業の品質管理技術の向上を図る。	三重県生コンクリート工業組合	材料技術研究課
鋳造技術研究会	3回	鋳造技術に関する検討を行い、技術課題の解決を図る。	鋳造技術研究会	金属研究室
三重県デザイン研究会	2回	デザイン関連企業への情報提供と交流を支援し、デザイン力向上を図る。	三重県デザイン研究会	窯業研究室
萬古焼総合コンペ	10～5月	萬古焼産業界の振興	四日市市萬古陶磁器振興協同組合連合会	窯業研究室
意匠登録審査会	3回	萬古焼業界の知的所有権の保護を支援する。	四日市市萬古陶磁器振興協同組合連合会	窯業研究室

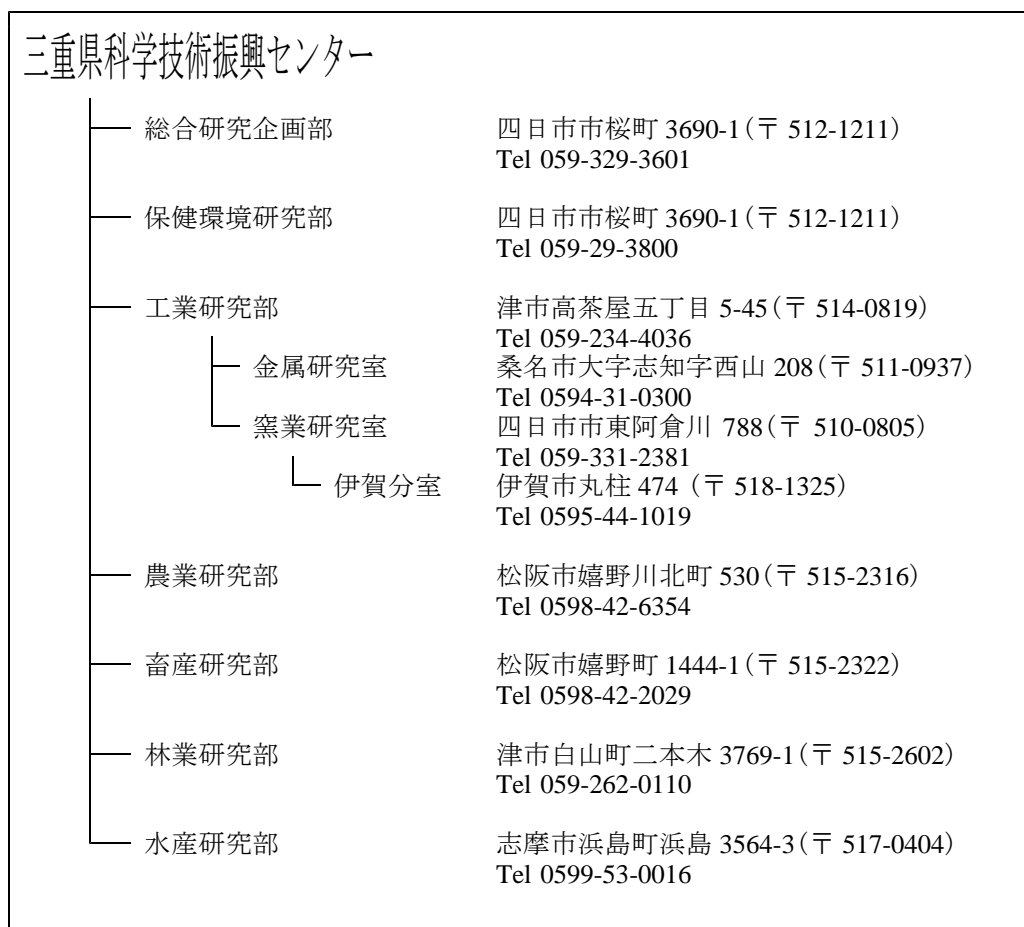
4.3 技術人材の育成・確保（23403）

会名	開催回数 又は時期	内容	主催団体等	担当
三重県技能者表彰審査委員会	2回	事業所に勤務する技能者の能力を審査・表彰し、技能者の地位と水準を向上する。	生活部	企画調整課
三重県溶接技術競技会審査会	2回	機械等製造業の溶接技術者の技術向上を図る。	(社)日本溶接協会三重県支部	電子・機械研究課
ISO-HACCP研修会	2回	食品関連企業の技術者の食の安全・安心への取り組みを啓発する。	三重県食品産業振興会	医薬品・食品研究課
食品技術実習会	1回	食品業界の技術者の微生物管理技術の向上を図る。	三重県食品産業振興会	医薬品・食品研究課
5S研修会	2回	食品業界の技術者の食品製造技術の向上を図る。	三重県食品産業振興会	医薬品・食品研究課
酒造技術者研修	3日	清酒製造業の技術者の酒造技術の向上を図る。	日本酒造組合中央会中部支部	医薬品・食品研究課
薬事関係技術高度化研修会	1～2回	薬事関連企業の技術者の先進技術の習得を図る。	三重県	医薬品・食品研究課
縫製技術教育研修会	5回	繊維業界の人材の基礎的技術の向上を図る。	三重県衣料縫製工業組合	材料技術研究課 医薬品・食品研究課
土木技術者講習会	1回	土木関連業界の技術者の技術力の向上を図る。	三重県建設協同組合	材料技術研究課
鋳物生産技術競技会	1回	鋳鉄鋳物業界の技術者の鋳造技術の向上を図る。	桑名市、三重県鋳物工業協同組合	金属研究室
鋳物工業協同組合中国人研修	1回	鋳物業界の人材の基礎的技術の習得を図る。	三重県鋳物工業協同組合	金属研究室

5. 展示会等への出展

会 名	開催回数 又は時期	開催場所	主催団体等	担 当
第3回 三重のリーディング産業展	H18. 11. 10 ～11	四日市ドーム	三重の21世紀リーディング 産業展実行委員会	企画調整課
産学官研究交流フォーラム・ オン・キャンパス	H18. 12	三重大学	三重大学・地域共同研究セン ター 三重県、津市 (財) 三重県産業支援センタ ー 中勢北部サイエンスシティー 企業誘致促進協議会 (株) 三重ティーエルオー	企画調整課
特許流通フェア	11月	名古屋市中小企業振興会館 (吹上ホール)	特許庁 中部経済産業局	企画調整課
陶&くらしのデザイン展 2006全国巡回展	H18. 7 ～18. 11	ばんこの里会館他全国6ヵ所	陶&くらしのデザイン コンソーシアム	窯業研究室

三重県科学技術振興センターの組織図



平成18年度三重県科学技術振興センター工業研究部事業計画書

平成18年5月24日 印刷
平成18年5月24日 発行

編集・発行

三重県科学技術振興センター工業研究部
〒514-0819 三重県津市高茶屋五丁目5番45号
TEL 059-234-4036 (代)
FAX 059-234-3982
E-Mail: kagaku@mie-iri.tsu.mie.jp

金属研究室
〒511-0937 三重県桑名市大字志知字西山208
TEL 0594-31-0300
FAX 0594-31-8943
E-Mail: metals@pref.mie.jp

窯業研究室
〒510-0805 三重県四日市市東阿倉川788
TEL 059-331-2381
FAX 059-331-7223
E-Mail: cerapost@mie-iri.tsu.mie.jp



古紙配合率100%の再生紙を使用しています。